

# 2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 21 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	奥寺 葵
研究課題	政労使の「働き方改革」—労働観と人事労務管理の変遷—				
研究キーワード	ワーク・ライフ・インテグレーション	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	3. すべての人に健康と福祉を	5. ジェンダー平等を実現しよう	10. 人や国の不平等をなくそう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>1) 「働き方改革」は、すべての働く人々が自らの職業生活を考え、企業が経営面を改善し、グローバルな競争力をもった組織として生き残っていくための重要かつ統合的な戦略である。危機管理時代を乗り越えるために、経営面では、政府の社会政策・労働政策と仕事、家庭、生活、社会の側面をより密接に統合して進んでいかねばならない。またその観点から未来を切り拓く働きやすい職場整備や労働条件面での経営方途がどのようなものであるかを探り、ワークライフ・インテグレーションがいかに展開し寄与するのか提唱した。本年度は主に女性労働に焦点を当て、歴史的な変遷をまとめることができた。</p> <p>2) 学長プロジェクト2のメンバーとして、真に社会に必要とされるあるべきUSRについて研究した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥寺葵（2023）書評：平澤克彦・中村艶子編（2021）『ワークライフ・インテグレーション:未来を拓く働き方—』ミネルヴァ書房『労務理論学会誌』第32号</li> <li>・奥寺葵（2023）「労働観の表象と人事労務管理：『ワーク・ライフ・バランス』の観点から」『千葉商大論叢』61（1）</li> <li>・奥寺葵（2023）「女性活躍推進と『ワーク・ライフ・バランス』の実態と中核的目的」『千葉商大論叢』61（2）</li> <li>・Aoi Okudera（2023）Book Review：Katsuhiko Hirasawa and Tsuyako Nakamura (eds.)（2021）“Work-Life Integration -Work-Life Integration: Workstyle that opens up the future” Minerva Shobo , OXFORD DIALOGUE</li> </ul> <p>3. 主な経費</p> <p>パソコンとプリンターが老朽化したため購入したほか、関連書籍の購入に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労務理論学会 幹事、編集委員</li> </ul> <p style="text-align: right;">（本文は2ページ以内にまとめること）</p>					